

自分で考えるチャンス！

今年も、暑い暑い夏がやってきました。子ども達にとっては、一学期のまとめをしっかりとした後、楽しみにしていた「夏休み」を迎える時期となりました。一方、ご家庭では、「学校に行っているときのように勉強をしてくれるのかなあ。」などと心配される夏休みでもあるのではないのでしょうか。

一学期、子ども達は「学校」という小さな社会の中で、「こういうことはやってはいけないのかな。」「(しんどいけど) こうしよう。」「(友だちに) こんな声をかけると、楽しい関係になりそうだ。」と、自分で考え判断しながら生活してきました。外で汗だくになりながら遊んでいても、チャイムが鳴ると、走って教室に入っていく姿。毎朝、職員室に「おはようございます。」と大きな声で挨拶をする姿。掃除時間に「ここ拭いてね。」と、低学年の子に声をかけて、自分は机を運ぶ上級生の姿など。

このような学校での姿は、大人である先生が、口うるさく言っているからではありません。学校では、やり方を教えたり、「どうすればいいと思う？」と声をかけたり、「下級生に何をしてもらうのがいい？」と、上級生に掃除分担を考えさせたりするなどして、「考える機会」を創っています。

命にかかわるような場面では、「してはいけない。」の言葉も必要ですが、一学期間、学校で培った「考え、判断する力」を伸ばす意味でも、子ども達に「考えるチャンス」をできるだけ与える夏休みにされてはいかがでしょう。その判断が本当によかったかを振り返ることで、きっと子ども達はさらに成長することでしょう。

校長 田丸 栄